

令和7年度卒業時アンケート 【歯科衛生学科】

実施日	令和8年3月4日（水）
所属	歯科衛生学科 3年次 50/50名（回答率 100%）

【全体概要】

令和7年度卒業時アンケートは、歯科衛生学科3年次生を対象に、卒業時点での自己評価や教育満足度を把握することを目的として実施された。回答率は100%で有効な調査結果が得られた。

調査では、2021年度から2025年度までの5年間における各項目の平均値の推移を比較し、年度による傾向を分析した。

調査項目は、①短大生活で身についた能力、②自分に不足していると感じる能力、③短大で強化・充実させてほしい能力、④本学での教育全般の満足度で構成されている。15種類のジェネリックスキルについては、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力、処理力、思考力、専門力の観点から検討した。

その結果、短大生活で身についた能力では、協働力および実践力に有意な増加傾向が認められた一方、数量的処理力には有意な減少傾向が認められた。自分に不足している能力については、すべての項目で有意な傾向は認められなかった。また、短大で強化・充実させてほしい能力では、統率力、専門知識、専門技術・技能に有意な増加傾向が認められた。教育全般の満足度については、すべての項目で有意差は認められず、全体として安定した評価であった。

【結果の要約】

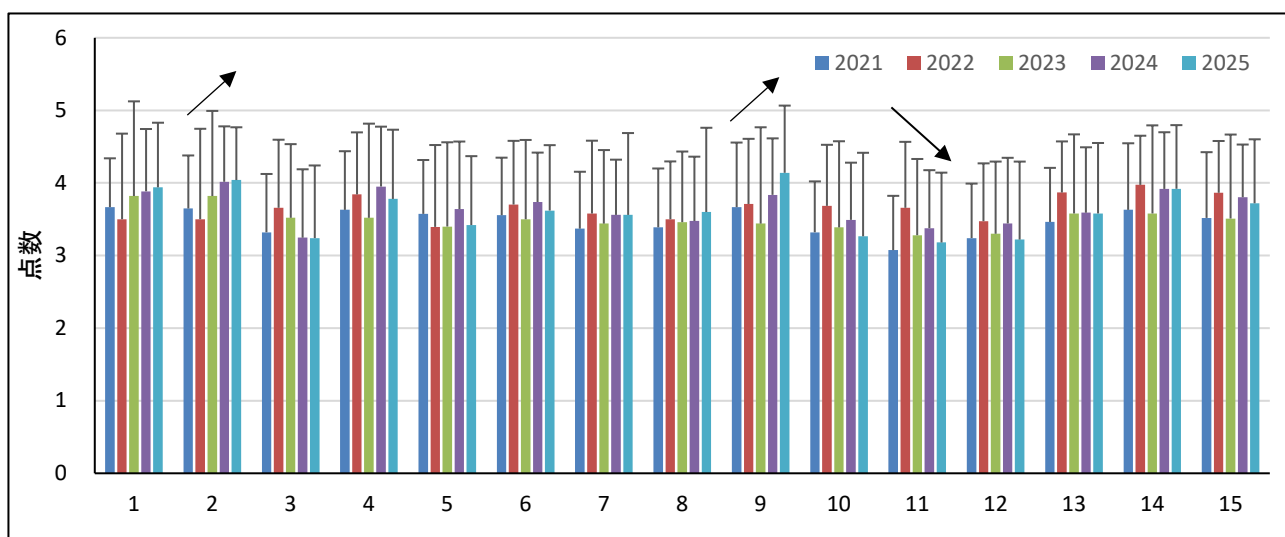
1. 15種類のジェネリックスキル（汎用的能力）について

2021～2025年度までの5年間にわたり、15種類のジェネリックスキル（汎用的能力）の各年次の平均値の傾向を Linear-by-Linear Association 検定で評価した。回答は、「持っていない・まったく思わない：1点」、「あまり持っていない・あまり思わない：2点」、「どちらともいえない：3点」、「持っている・思う：4点」、「十分持っている・強く思う：5点」とした。

1) 短大生活で身についた能力（図1）

各年次の平均値を図1に示した。数値が高いほど、ジェネリックスキル短大生活で身についたと考えていることになる。

その結果、項目2「人と協力しながら物事に取り組む力（協働力）」および項目9「行動を起こし、最後までやりきる力（実践力）」に有意な増加傾向が認められた。このことから、学生は短大生活を通して、他者と協力して取り組む力や、課題に対して主体的に行動し最後まで遂行する力を高めていることが示された。一方、項目11「データや数字をすばやく読み取る力（数量的処理力）」には有意な減少傾向が認められた。



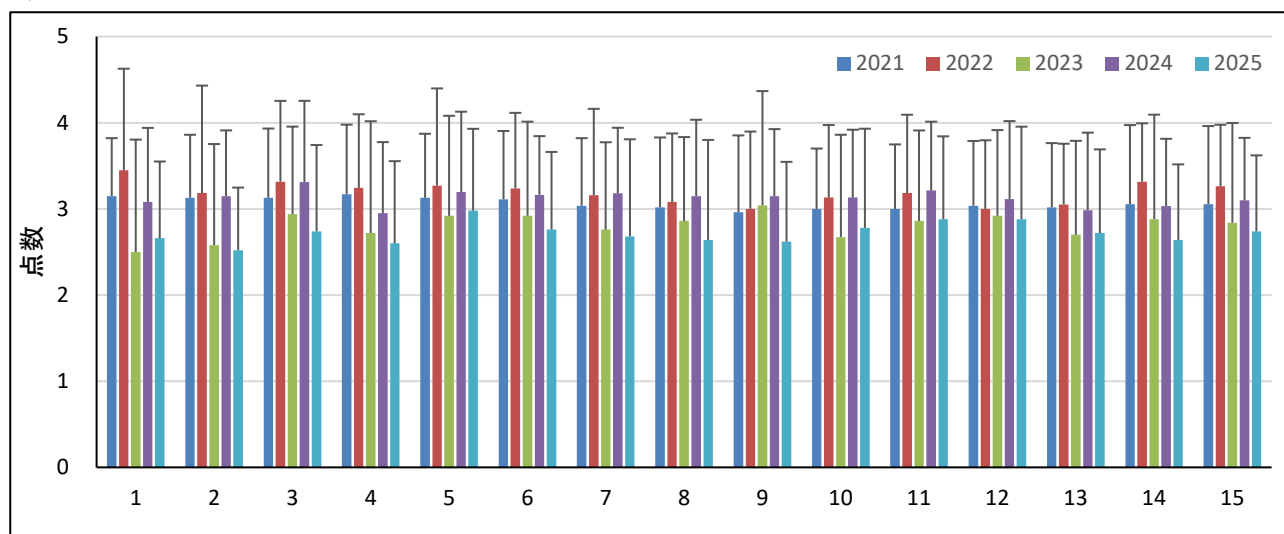
- ①円満な人間関係を築く力〔親和力：対人基礎力1〕
 ②人と協力しながら物事に取り組む力〔協働力：対人基礎力2〕
 ③目標に向かって人や集団をひっぱる力〔統率力：対人基礎力3〕
 ④自分の感情をコントロールする力〔感情制御力：対自己基礎力1〕
 ⑤やる気を維持する力〔自信創出力：対自己基礎力2〕
 ⑥良い行動を習慣として続けられる力〔行動持続力：対自己基礎力3〕
 ⑦情報を収集・分析して課題を発見する力〔課題発見力：対課題基礎力1〕
 ⑧課題解決のための計画を立案する力〔計画立案力：対課題基礎力2〕
 ⑨行動を起こし、最後までやりきる力〔実践力：対課題基礎力3〕
 ⑩文章の構成や要旨を的確に理解する力〔言語的処理力：処理力1〕
 ⑪データや数字をすばやく読み取る力〔数量的処理力：処理力2〕
 ⑫論理的に物事を分析・構築する力〔論理的思考力：思考力1〕
 ⑬独自のものの見方や考え方をする力〔創造的思考力：思考力2〕
 ⑭将来の仕事に関する専門的な知識〔専門知識：専門力1〕
 ⑮将来の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ〔専門技術・技能：専門力2〕

図1 2021～2025年度の短大生活で身についたジェネリックスキル（汎用的能力）の変化

2) 自分に不足している能力

自分に不足している能力については、図2で示した。点数が高いほど、学生が自分に不足していると感じている。

すべての項目において有意な傾向は認められず、年度による大きな変化は見られなかった。このことから、学生が自己の不足能力として認識する内容は、5年間を通して大きく変動していないと考えられる。



- ①円満な人間関係を築く力〔親和力：対人基礎力1〕
 ②人と協力しながら物事に取り組む力〔協働力：対人基礎力2〕
 ③目標に向かって人や集団をひっぱる力〔統率力：対人基礎力3〕
 ④自分の感情をコントロールする力〔感情制御力：対自己基礎力1〕
 ⑤やる気を維持する力〔自信創出力：対自己基礎力2〕
 ⑥良い行動を習慣として続けられる力〔行動持続力：対自己基礎力3〕
 ⑦情報を収集・分析して課題を発見する力〔課題発見力：対課題基礎力1〕
 ⑧課題解決のための計画を立案する力〔計画立案力：対課題基礎力2〕
 ⑨行動を起こし、最後までやりきる力〔実践力：対課題基礎力3〕
 ⑩文章の構成や要旨を的確に理解する力〔言語的処理力：処理力1〕
 ⑪データや数字をすばやく読み取る力〔数量的処理力：処理力2〕
 ⑫論理的に物事を分析・構築する力〔論理的思考力：思考力1〕
 ⑬独自のものの見方や考え方をする力〔創造的思考力：思考力2〕
 ⑭将来の仕事に関する専門的な知識〔専門知識：専門力1〕
 ⑮将来の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ〔専門技術・技能：専門力2〕

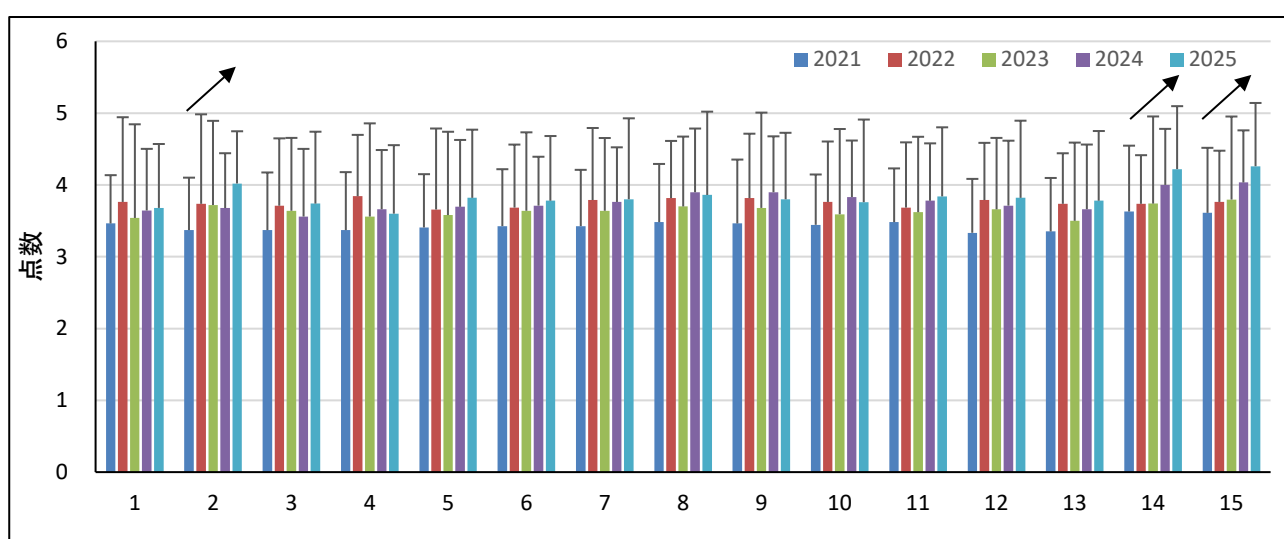
- ⑨行動を起こし、最後までやりきる力〔実践力：対課題基礎力3〕
- ⑩文章の構成や要旨を的確に理解する力〔言語的処理力：処理力1〕
- ⑪データや数字をすばやく読み取る力〔数量的処理力：処理力2〕
- ⑫論理的に物事を分析・構築する力〔論理的思考力：思考力1〕
- ⑬独自のものの見方や考え方をする力〔創造的思考力：思考力2〕
- ⑭将来の仕事に関する専門的な知識〔専門知識：専門力1〕
- ⑮将来の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ〔専門技術・技能：専門力2〕

図2 2021～2025 年度の自分に不足しているジェネリックスキル（汎用的能力）の変化

3) 短大で強化・充実させて欲しい能力

短大で強化・充実させてほしい能力については、図3に示した。

その結果、項目3「目標に向かって人や集団をひっぱる力（統率力）」、項目14「将来の仕事に関する専門的な知識（専門知識）」、項目15「将来の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ（専門技術・技能）」に有意な増加傾向が認められた。このことから、学生はリーダーシップや専門性に関する教育のさらなる充実を求める傾向が強まっていると考えられる。



- ①円満な人間関係を築く力〔親和力：対人基礎力1〕
- ②人と協力しながら物事に取り組む力〔協働力：対人基礎力2〕
- ③目標に向かって人や集団をひっぱる力〔統率力：対人基礎力3〕
- ④自分の感情をコントロールする力〔感情制御力：対自己基礎力1〕
- ⑤やる気を維持する力〔自信創出力：対自己基礎力2〕
- ⑥良い行動を習慣として続けられる力〔行動持続力：対自己基礎力3〕
- ⑦情報を収集・分析して課題を発見する力〔課題発見力：対課題基礎力1〕
- ⑧課題解決のための計画を立案する力〔計画立案力：対課題基礎力2〕
- ⑨行動を起こし、最後までやりきる力〔実践力：対課題基礎力3〕
- ⑩文章の構成や要旨を的確に理解する力〔言語的処理力：処理力1〕
- ⑪データや数字をすばやく読み取る力〔数量的処理力：処理力2〕
- ⑫論理的に物事を分析・構築する力〔論理的思考力：思考力1〕
- ⑬独自のものの見方や考え方をする力〔創造的思考力：思考力2〕
- ⑭将来の仕事に関する専門的な知識〔専門知識：専門力1〕
- ⑮将来の仕事の遂行に必要な技術やノウハウ〔専門技術・技能：専門力2〕

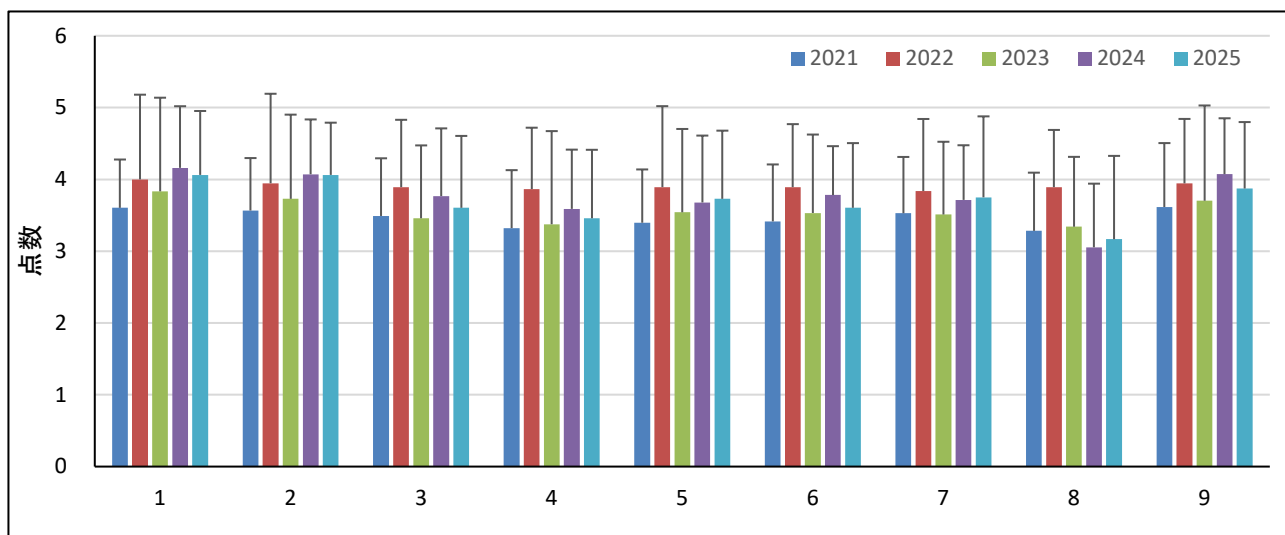
図3 2021～2025 年度の短大で強化・充実させてほしいジェネリックスキル（汎用的能力）の変化

2. 本学での教育全般の満足度

各質問事項の回答を「まったく思わない：1点」、「あまり思わない：2点」、「どちらともいえない：3点」、「思う：4点」、「強く思う：5点」とした。

教育全般の満足度の平均値は、3.1～4.0と概ね満足していることが分かった。

すべての項目で有意差は認められなかった。したがって、教育全般に対する評価は年度によって大きく変化しておらず、一定の水準で安定していることが示された。



- ① 専門領域における知識面での教育は適切であった。
- ② 専門領域における技術面での教育は適切であった。
- ③ 一般常識や教養が身についた。
- ④ 人間性の面で適切な教育がなされていた。
- ⑤ 自己（健康・体調）管理についての教育が適切になされていた。
- ⑥ コミュニケーション教育が適切になされていた。
- ⑦ 笑顔・挨拶を含めた接遇が身についた。
- ⑧ 学修ポートフォリオは、あなたにとって有意義なものでしたか。
- ⑨ 短期大学での教育は、総合的に満足であった。

図4 2021～2025 年度の本学での教育全般の満足度の変化

【考察】

本調査では、協働力と実践力に有意な増加傾向が認められたことから、講義や実習を通じて、他者と協力しながら主体的に課題へ取り組む力が育成されていることが示唆された。

一方、数量的処理力は有意な減少傾向を示しており、データや数値を読み取り活用する機会が十分でない可能性が考えられる。また、学生が強化・充実を求める能力として、統率力、専門知識、専門技術・技能が有意に増加しており、卒業後の実践を見据えた教育への期待が高まっていることがうかがえる。

教育全般の満足度は年度間で有意差が認められず、安定した評価が得られていた。

今後は、現在の教育の質を維持しつつ、数量的処理力の向上や、リーダーシップおよび専門性をさらに高める教育の充実が求められる。

【改善策案】

- 数量的処理力の向上を図るため、統計資料やグラフ、検査値などのデータを活用した演習を授業に取り入れる。
- 統率力を育成するため、グループワークや実習でリーダー役を経験する機会を計画的に設ける。
- 学生の学習ニーズを継続的に把握するため、アンケート結果を定期的に分析し、教育内容の見直しに活用する。
- 卒業後の実践力向上を目指し、臨床現場との連携や実践的な学習機会を充実させる。